

道徳科 学習指導案

令和元年11月27日(水) 第2校時(2の2教室) 2年2組 指導者

I 主 題 相手のために

II 考 察

1 主題観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

相手のことを考えて親切にすることのよさについての理解

②思考力, 判断力, 表現力等

進んで相手に親切にすることについての自己の考え

③学びに向かう力, 人間性等

進んで相手に親切にしようとする意欲と態度

(2) 学習内容: 学習指導要領上の位置付け

B 主として人との関わりに関すること

7 親切, 思いやり〔第1学年及び第2学年〕

身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。

(3) 主題と教材の価値

本主題は「親切, 思いやり」の内容項目のうち, 進んで相手に親切にすることについて考える学習である。その価値は以下のとおりである。

相手に温かい心で接し, 親切にすることは大切である。そうすることで, 互いが相手の存在を受け入れ, 相手の気持ちや置かれている状況を想像しながら助け合い励まし合って, よりよい人間関係を築くことができるからである。特に, 相手からの感謝の言葉や見返りがなくても, 相手の喜びを願って親切にすることで, 自他ともに清々しい気持ちで関係を深めることができる。したがって, 進んで相手に親切にしようとする意欲と態度を身に付けていくことができる。

第2学年の子どもたちは, 行事や授業において友達と集団で活動することや友達と一緒に休み時間に遊ぶことを繰り返しながら, 友達に親切にしたり, 親切にされたことに対して感謝の気持ちを表現したりしてきている。その一方で, 自分に親切にしてくれた覚えのない友達には, 進んで助けようとしめない姿も見られる。このような子どもたちが, 日常生活における自己と教材における登場人物を比較しながら, 進んで相手に親切にすることについて考えたり, 友達の考えを受けて, 相手のことを考えて親切にすることのよさについての理解を更新したりすることを繰り返すことで, 相手からの感謝の言葉や見返りがなくとも, 相手が喜ぶことを考えると進んで親切にしようと思えることに気付き, 進んで相手に親切にしようとする意欲と態度を養うことができる。

教材は, 「小さなゆきうさぎ」を使用する。教材の内容及び価値は, 以下のとおりである。

二年生のきよみは, 毎朝一年生のおさむと一緒に登校している。雪の降ったある朝, きよみは

いつものようにおさむを迎えに行くと、おさむの母からおさむが風邪をひいたので学校を休むことを伝えられる。雪を楽しみにしていたおさむのことを案じたきよみは、おさむのためにその場で小さな雪うさぎをつくり、おさむの母に渡す、という内容である。

見返りを求めず、進んでおさむのために雪うさぎをつくるきよみの姿から、子どもたちは進んで相手に親切にすることについての問題意識をもつことができる。また、親切にしたきよみと親切にされたおさむやおさむの母の心情に着目することで、親切にされた側もした側もともに嬉しい気持ちになることに気付くことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「親切とおせっかい」での、相手が本当に喜ぶ行動について考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「広がる心の温かさ」において、困っている人に親切にすることについて考える学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、以下のとおりである。

- ① 困っている人に親切にすると、相手も自分も温かい気持ちになるとともに、さらなる思いやりが生まれるというよさについての理解を深めてきている。このような子どもたちが、相手のことを考えて親切にすることのよさに気付けるように、主人公が相手に進んで親切にした理由に関わって、大切だと思ったことを共有する機会を設定する。
- ② 困っている人に親切にすることについて多面的・多角的に考えてきている。このような子どもたちが、進んで相手に親切にすることについて多面的・多角的に考えられるように、学習課題について考える際に「自分だったら…」「〇〇はこう思っているから」「□□なよさがあるから」という視点カードを用意する。
- ③ 困っている人に親切にしようとしてきている。このような子どもたちが、進んで相手に親切にしようとする意欲と態度を養えるように、相手のことを考えて親切にすることのよさを確認した後に「これからしていきたいこと」という視点を提示する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習（1／1時間目）

- 1 ねらい きよみがおさむに優しくした理由について話し合うことを通して、相手のことを考えて親切にすることのよさに気づき、進んで相手に親切にしようとする心情を養う。
- 2 準備 アンケート結果をまとめた模造紙 視点カード
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題をつかむ。 ・いつもありがとうと言ってくれる友達には優しくできるけど、言ってくれない人には優しくしようとは思えないな。 ・きよみさんはおさむくんにお礼を言われていないのに、雪うさぎを作って優しくして	○相手に親切にすることに対する自分やクラスの実態を自覚できるように、アンケート結果をまとめた模造紙を提示する。 ○進んで相手に親切にすることについての問題意識をもてるように、教材「小さなゆきうさぎ」の範読後、主人公の行為とアンケート結果の相

いるな。どうして優しくしたのだろう。

違点を問いかける。

学習課題「どうしてきよみさんはおさむくんに自分からやさしくしたのだろう」【ア】

「見方・考え方」を働かせて協働的に学ぶ子どもの姿

主人公が進んで友達に親切にしたことについて、これまでの自分の生活経験を基に、自分や友達、登場人物の複数の視点から話し合っている。

2 学習課題の解決に向けて話し合う。

- ・きよみさんは、おさむくんに元気を出してほしいから優しくしたんだと思う。だって、早く治って一緒に登校したいから。
- ・おさむくんの気持ちになってみると、雪うさぎがもらえてとても嬉しいと思っているだろうな。
- ・黒板に書かれた考えはいろいろあるな。「おさむがかわいそうだと思ったから」にも賛成だな。
- ・黒板をよく見ると、きよみのこと、おさむのこと、お母さんのこと、自分のことの4種類の考えがあるのが分かるよ。
- ・「おさむを喜ばせたかったから優しくした」が一番いいと思うな。だって、元気になるのもかわいそうに思うのも、つまりは喜ばせたいからにつながると思うから。
- ・確かに、優しくされて、おさむもお母さんも嬉しい気持ちになっているな。そして、きよみも「嬉しい」って思うだろうな。だって、相手が喜んでいて、自分も「やったあ」って嬉しくなるもん。
- ・相手が喜ぶことを想像すると、進んで優しくできそうだな。でも、始めのアンケートを見ると、やっぱりそう簡単に優しくはできなそうだ。これからはなるべくきよみさんのように進んで優しくしていきたいけれど、できるかな。

3 これからの自己の生き方について考える。

- ・まだ完全にできないかもしれないけど、相手が喜ぶ顔を思い浮かべて優しくしたい。
- ・さっそく今日からやっていきたいな。

○学習課題について自ら多面的・多角的に考えられるように、3人グループに1セットずつ視点カードを配付する。【イ】

- 自分なりの考えをもてていない子どもには、そのきっかけを得られるように、雪うさぎをもらったおさむの気持ちを問いかける。
- 自分なりの考えをもてた子どもには、いろいろな考えがあることに気付けるように、3人グループで集約した考えを黒板に書くよう促す。
- 多面的・多角的な視点を自覚できるように、板書された考えを自分や登場人物の視点ごとに同じ色で囲み、色分けした理由を問いかける。
- 自他の考えを比較してよりよい考えへ更新できるように、板書された考えの中からよりよいと思うものにネームマグネットを貼るよう促す。
- 相手が喜ぶことを考えると進んで親切にしようと思えることに気付けるように、親切にされたおさむと母の気持ちを確認した後、きよみの気持ちとその根拠を問いかける。
- 進んで相手に親切にすることの難しさに気付けるように、本時大切だと思ったことを確認した後、アンケート結果を再度提示する。

— 評価の視点 —

相手のことを考えて親切にすることのよさについて、自分や友達、登場人物の複数の立場から考えたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>

- 進んで相手に親切にすることと、自分の生活とを結び付けられるように、「これからしていきたいこと」の視点を提示する。
- これからの生活への意欲をもてるように、生活の見通しを具体的にもてたことを称賛する。

指導計画（全1時間）

ね ら い	きよみがおさむに優しくした理由について話し合うことを通して、相手のことを考えて親切にすることのよさに気づき、進んで相手に親切にしようとする心情を養う。	
教材	小さなゆきうさぎ	
主題 構成	導入では、風邪で寝込んでいるおさむにきよみが進んで雪うさぎをつくってあげたことと普段の自分の生活場면을比較することで、進んで相手に親切にすることについての問題意識をもつことができる。展開では、きよみがおさむに進んで優しくした理由を基に、きよみ、おさむ、おさむの母の心情に着目することで、相手のことを考えて親切にすることのよさに気付くことができる。	
見方・ 考え方	主人公が進んで友達に親切にしたことについて、自らの道徳的価値の理解を基に、自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えること	
過程	学習活動	評価の視点<評価方法>
導入	○教材を読み、学習課題「どうしてきよみさんはおさむくんに自分からやさしくしたのだろう」をつかむ。【ア】	
展開	○学習課題の解決に向けて話し合う。	◇相手のことを考えて親切にすることのよさについて、自分や友達、登場人物の複数の立場から考えたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・学習プリント①②③>
終末	○これからの自己の生き方について考える。	
他の 教育 活動 との 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・他者とかかわる日常生活全般 例：配り係の友達がたくさんの配り物を配っている場面 ドッジボールをしていて、自分でボールをキャッチした際にあまりボールを投げない友達がいる場面 教師がたくさんの荷物を持っている場面 	